

町の施設に公衆無線LANスポット (無料Wi-Fi)を設置してはどうか！

町長／まず、まちづくり交流センターに
設置する



豊瀬 和久議員

町政を問う

一般質問
11議員

町民が利用する図書館、役場のロビー、その他大勢の人が集まる施設に無料で利用できる公衆無線LANスポットを設置してはどうか。外国人観光客にも喜ばれ、旅行者を呼び込める。

家入町長

無料Wi-Fiは、町民の利便性向上や大規模イベントにおける通信手段の確保、災害時の情報発信手段としての利用や、外国人観光客から見た町の魅力向上に繋がる。その中で、県が空の玄関口として大津町ビクターセンターに設置する。町の魅力を発信する絶好の機会ととらえ、情報発信、観光の振興、地域コミュニケーション、防災を観点に、この新しい情報発信技術を活用していく。

防災士の資格取得に 助成金を！

町長／次年度から取り組みたい

地域における自主防災組織も推進されているが、まだまだ十分ではない。多くの自治体で防災士資格取得のための助成を行っている。大津町でも人材育成の観点からも助成をして多くの防災士に誕生していただきたいと思う。



気象注意情報メール

防災無線が聞こえないとの苦情を聞く。地形や気象状況によっては聞き取りにくかったり、聞き逃す場合もある。また難聴の方もおられるので、防災放送の内容をメールで配信できないのか。

家入町長

災害時の緊急情報伝達の手段としては、携帯電話のエリアメールを活用することや、一部の地域で導入している地域コミュニティ無線の拡大も図っていききたいと思う。

岩尾総務部長

今後、メール配信を運営する事業者から詳細な情報を入手して、導入に

町長／導入に向け検討をしていく 防災無線で放送する内容を防災 メールで配信してはどうか！

家入町長
地域の防災力をいかに向上させるか、自分の身は自分で守る、自分たちの住む地域は自分たちで守る。そういう取り組みが、これからの安心・安全のまちづくりの要であると感じている。地域を良く知っている身近な人が、災害発生の初動対応において、迅速に行う

ことが災害の軽減につながる。地域の持つ役割が重要であり、既存の防災では限界がある。防災士はまさにそのような、地域防災活動のリーダーを育成するための資格である。

受講費用の助成の対象者はどのような方が良いのか、いろいろと検討し、次年度から取り組みたい。

図書館で読まれる雑誌に有料 広告を募集してはどうか！

町長／実施に向けて検討していきたい

図書館内で読まれる雑誌の最新号は広告媒体として非常に有効ではないか。

家入町長

実施に向けて検討していきたい。

その他の質問

- ① ミストシャワーの設置について
- ② 仮ナンバープレート の取り扱いについて

向けた検討をしていく。



桐原 則雄議員

ふるさと納税を活用し、「おもてなしの心」で大津大好き応援団を増やせ

町長／ふるさと納税と連携し、活力あるまちづくりや観光と地産地消のPRを強化

①ふるさと納税を活用し、町を愛し、ふるさとが発展することを望む関東、関西、九州や県内の町出身者の大津大好き応援団を大いに増やし、収入確保や地域づくりに活用する考えはないか。

②TPP問題や物価上昇等で、農林業や商業関係は、大変厳しい。ふるさと納税の応援者や消費者を巻き込んで、観光PRや地産地消等の取り組みを強化する考えはないか。

家入町長

①ふるさと納税は、財源確保に有効な手段。大津大好き応援団を増やす取り組みを積極的に進める。
②ふるさと納税と連携し、観光や地産地消のPRに大いに活用し、活力あるまちづくりを進める。

那須教育長

将来の大津町を担う子どもたちが、健康で元氣よく成長するために、食育は大切。学校、地域、家庭を巻き込んだ食育推進や地産地消を、どのように進めるのか。

各学校と給食センターの栄養教諭等が連携して食育推進を実施している。今後、農産物の生産体験などを含め、学校、地域、家庭と一体となつて食育の大切さや地産地消を、更に推進する。



お礼に、ふるさとを感じる町の特産品

給食センターの老朽化に伴う全体的な整備対策は

町長／将来を見通し、早急に検討

給食センターは、整備後23年が過ぎ老朽化している。今後の児童数の増加や地産地消への対応を含め、全体的な整備計画はどうなっているのか。

家入町長

子どもたちの健康対策と生徒数の増加に伴い施設の場所や規模を含めて、早急に検討する。

幼稚園、小中学校にエアコン設置を急げ

教育長／中学校26年度、幼稚園、小学校も整備を検討

那須教育長

中学校は、26年度に実施予定、陣内幼稚園は、25年度検討、大津幼稚園も急ぎたい。小学校も計画的に整備していく。

子どもたちの健康管理や勉強への集中力を充実させるため、幼稚園や小学校エアコン整備は、どうなっているのか。



地域の皆さんと仲良く給食交流（南小）

教育施設の全体改修整備を早急に

町長／計画的な学校環境整備を推進
教育長／補助金を活用して総合的に対応

家入町長

補助金等を活用し、計画的な学校環境整備に取り組んでいく。

那須教育長

施設維持改修計画と財政を考慮し、補助金等を活用し、取り組んでいく。

南小学校に、学童保育施設整備を

教育長／空き教室の活用を検討

大津南小学校の学童保育施設の整備を強く望む声があるが、今後の計画は、どうなっているのか。

那須教育長

現在、利用中の保育園や学校とも協議し、学校敷地内や空き教室の活用も含めて検討する。

教育を充実させるために、幼稚園や小中学校施設の改修整備を、今後、どのように実施していくのか。

運動公園の更新について

町長／これまで以上にPRし、有効活用していく



永田 和彦議員

運動公園は県下でもトップクラスのサッカー場を有しており、今後有効活用が期待できるが、視点を変えれば他の市町村は大津町に追いつけ追い越せなのである。今後その地位を不動にするには時代のトレンドを見逃してはいけないし有識者の意見も重要で、人工芝の要望が多く聞かれる。時代の流れを読み解き、必要となる更新をして町の財産価値を増幅しなければならぬ。

家入町長

ホームページにおいて運動公園は常にアクセス



大津町運動公園

ランキング上位にあり、町民の利用はもとより全国各地から大会などで多くの方々が来町され、スポーツ観光大津町の顔となっている。公園をこれまで以上にPRし、有効に活用していくには、経年劣化してきている天然芝の張り替えや競技場スタンドの雨漏り、総合体育館アリーナ空調設備など、計画的な改修と、急速に普及している人工芝への対応が重要と考える。費用対効果や利用効果などの可能性や有効性を精査しながら取り組んで行く。

公衆トイレについて

町長／トイレについての認識をもち、整備推進を図る

トイレの力は偉大で、

歩いていける場所に在る事により高齢者の方々の外出が多くなり、地域経済も潤うし健康維持にもつながる。しかしながら現状は数も少なく、様々な施設にあるトイレも老朽化や基本の設計が悪く、機能不全や悪臭が充満しているなど問題が多くよせられる。そこで町民や使用者からの意見を取り入れ、それを反映させた清潔なトイレのある町としたい。小学生の頃、先生曰く「その家の便所を見れば中身がわかる」と言われたことを思い出す。公衆トイレは町の中身を映し出すのである。

家入町長

きれいなトイレというのは本当に気持ち良いもので一日の出発点でもある。町民の方はもとより来訪者の方々も、町が管理する各トイレを気持ち良く使っていた、ということが重要で、町を好きになつていただくには欠かせないと認識をしている。今回、駅前楽善線の上井手の所に観光ルート

の一つとしてのトイレをつくらうと指示をしている。ご指摘の通り、優良トイレみたいな形でピシッとつくり、またその前には手長会所の門もつくるので、話題性のあるトイレをつくることも、町民各位や観光客等の皆さんにも喜んでいただけたらと思う。



中央公園のトイレ



手嶋 靖隆議員

阿蘇の玄関口国道57号線沿いに道の駅として、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を併せもつ公共道路施設としてスタートして20年を経過。今や全国に1005駅と定着し東日本大震災時には防災面で全国ネットとして役割が再認識され、自然災害時の緊急避難場所と食料品の調達機能を果たしていると聞く。更に地域災害の歴史や、地誌、風土を知る「学びの場」にしたいと提案されていると共に道路利用者や地域社会の多様な需要、創

意工夫が、うかがわれて共感の輪を広げようと新たな試みが道の駅、再生に動き始め郷土に生きる絆の大切さが再認識されてきた。本町においても、第三セクターの自治体として関わりを大切にするために、構内に2棟の建物（元ビール工場、ふれあい館へガラス工房）が今だに休館となっている現状を踏まえて本町の防災上の拠点及び備蓄庫として活用するなど自治体の関わる役割を再認識し防災拠点の構築と地域振興連携強化の一元化のため一考を要すると思うが、町長の所見を伺いたい。

熊本文化の森、道の駅の活性化を図るためにも防災の拠点としての行政の関わりを町長／国と共に防災の拠点づくりと地産地消の取り組みに努めたい

家入町長

道の駅の防災拠点化は、国交省が進めているが、大津道の駅は、阿蘇方面を始め国道57号の拠点として、防災の役割は非常に重要であると認識している。しかし、提案の2棟の建物は、国の備蓄庫としては狭く、新たに整備する場合は、公共用地に建設したいとのことである。また、トイレの改修なども費用面で、進んでいないが、防災上での必要性は、国交省も認識しているため、十分相談しながら進めていく。活性化、地産地消については現在、矢護川グループで湧水米として直売されているが、地産関連の品物が耕作者から出店、品揃えが必要と考えている。販売関係の景気運営については、良好に推移して

いるが、ガラス工房や地ビール関係で投資して借金が高んでおり経営は今の段階では厳しい状況である。今後は、地産地消を始めとする地元の製品を出店し、地元の人々が足を運んでいただけるような道の駅に努力したい。



熊本文化の森 道の駅

今は時の流れが一変したかのように塘町筋を偲ぶ散策通りとして整備され、やすらぎの場も設けられ憩いの空間も造設されたが、一昨年から県営かんがい排水事業において上井手右岸日向側の傾斜の整備が進められ、明るい景観になったが、反面、全体的に殺風景で宿場町としての情緒に乏しい光景であり、よって、井手沿の緑化の一端として水の流れ、石橋に護岸等の一体化した景観形成の調和が大事と思うので関係機関、土地所有との協力合意にて事業完了後の右岸沿いに紅葉の植栽を行い、紅葉ロードを設けることにより宿場町筋としての立体感のもてる価値観の創出を図る街づくりの考えはないか所見を伺う。

家入町長

県営かんがい排水事業では、農地水路としての用水の確保及び防災減災を目的とした整備を行いました。当面防災を最優先に整備を進めた。今回、駅前楽善線道路整備や塘町筋の空地スペース等にポケットパークを整備するなど散策コースとしての景観整備に努める。

大塚経済部長

散策コースとして石橋など観光資源を有しておりますので上井手沿いの景観整備として光尊寺下流のガードパイプ約60mを上、下流と同様に改修し景観の統一を図る予定である。

宿場町としての景観形成について

町長／駅前楽善線整備と平行し、景観整備に努める



塘町筋 石橋と上井手

保育所が少ない・足りない直ちに整備を

町長／新設保育園を含めて進める



荒木 俊彦議員



大津保育園

保育所が足りない 近隣市町との比較

H24年	未就学児人数		保育所数		定員
市町村名	大津町	合志市	菊陽町	益城市	
人口	32,397	56,633	39,041	32,987	
未就学児人数	2,380	4,139	3,030	2,071	
人口比	7.3%	7.3%	7.8%	6.3%	
保育所数	7園	18園	13園	8園	
定員	860人	1,770人	1,190人	785人	
1園当り定員	123	98	92	98	
定員入所率	36%	43%	39%	38%	
定員入所率＝保育所定員÷未就学児人数					
合志市なみの43%の入所率だと1,023人の定員が必要になる。					

※幼稚園はこの表には入っていません

国が27年度から認定こども園関連等の法整備を進めているが、いづれにせよ保育所が不足するのは確かである。

新たな保育所整備に民

間活用でできるかどうかというようなことも検討しなくてはならない。町内私立保育園長と、課題事項について相談をしている。民間園の経営状況等も十分考慮し、園の意

見を聞きながら進めたい。町立保育園も大変狭くて厳しい状況である。今後について大津保育園の縮小方針の基、新しい園をつくる方向で進めていきたい。

家人町長

待機児童解消は「児童福祉法第24条」で自治体にその責任がある。保育所が少ない。大津町の保育所は、近隣自治体と比較しても非常に少ない。現在、大津町は7園、益城市は8園、菊陽町は13園、合志市は18園である。

すし詰め状態
1園当たり定員は120人で他市町は全部90人

台である。さらに120%まで定員を増やしてすし詰め状態と言わざるを得ない。保育所が足りない。未就学児童数に対して保育所がどれだけあるか、定員入所率を調べてみた。大津町では、2千380人の児童数に対して保育所定員は36%である。近隣市町で大津町は最低であり、合志市の43%

で計算すると、大津町の保育所の定員は163人不足している。直ちに保育所整備を私は、直ちに少なくとも100人程度の保育所整備に取り組むよう提案したい。特に、大津小学校と美咲野小学校区に保育園がほしい。子育て中の親にとって切実な問題である。

近隣自治体との保育料比較

24年度 3歳以上

階層	3歳以上	大津町	合志市	菊池市	熊本市
2	世帯の住民税 非課税	6,000	5,000	5,000	3,000
3	均等割	11,000	10,000	10,000	8,200
4	所得割	14,000	11,000	12,000	8,200
5	7,000円未満	18,000	15,000	15,000	12,500
6	～4万円未満	23,000	22,000	21,000	22,000
7	～6.3万円未満	26,000	27,000	26,000	29,000
8	～10.3万円未満	27,000	27,000	26,000	29,000
9	～41.3万円未満	27,000	29,000	26,000	30,000
10	～73.4万円未満	27,000	30,000	26,000	32,000
11	～73.4万円以上	30,000	32,000	26,000	32,000

※大津町と菊陽町はほぼ同額となっています

高い保育料引き下げを

町長／現状維持で

大津町の保育料金は高すぎる。近隣自治体、合志市、菊池市、熊本市と比較してみたが、収入の少ない世帯ほど相対的に町の保育料が高い。この10年間で平均年収で70万円ほど労働者の賃金下がっている。引き下げ改善をする気があるか。

家人町長

平成19年度に保育料の改定減額して以来5年が経過した。年々増加する保育所への負担額や、その他の扶助費を含め増加の傾向であり、慎重に取り組まなければならないと、町の監査報告にもある。

隣の菊陽町とはほとんど差がなく、現状維持を考えている。



佐藤 真二議員

小学校図書室司書配置の充実を

教育長／対策を校長等と相談して工夫していききたい

学校の図書室は子どもの学習や心の成長に大切な役割を果たす。しかし小学校の図書室は、放課後に開いていないところがある。非常勤の司書・司書補の勤務時間が5時間45分以内であるためと聞く。

那須教育長

小学校の図書の貸出数は全国の読書冊数平均を下回っておりまだ伸びしろがあると考えられる。司書・司書補の常勤化は難しいかもしれないが、学校支援ボランティアの活用などで放課後も図書室を開けることで子ども



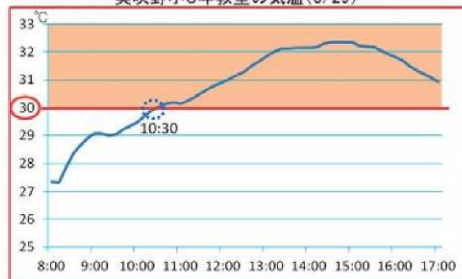
教室へのエアコン設置 今後のスケジュールは？

教育長／年次を定め予算要求する
町長／公共施設全体の見直し計画と切り離して検討する

間帯のシフトなど、工夫していききたい。また学校側が希望すれば、学校支援ボランティアに来ていただく余地もあると考える。

学校環境衛生基準では教室の温度は10度以上30度以下が望ましい、児童生徒に生理的・心理的に負担をかけない学習に望ましい環境は、冬季で18℃20度、夏季では25℃28℃

美咲野小6年教室の気温(8/29)



度程度となっている。

サンプル調査として美咲野小学校で8月29日に教室の気温を測定したところ、午前10時半には30度を超え夕方までそれが続いていた。

教室へのエアコン設置について、先の同僚議員の質問に対する答弁では「幼稚園は今年度中にできる限り、小学校は来年度中」ということだった。

しかし、「できるだけ早く」とは言ってもそれは、町の公共施設全体の見直し計画の中で検討するということで実際の計画があるわけでも約束さ

れたものでもなく、それとは切り離して考えるべきだ。

町は「有利な補助金」を期待しているようだが地域の元気臨時交付金を使うこともできたはずでこれまで計画を先送りしてきたことが問題だ。

教室のエアコンの問題は既に「学習環境」の問題ではなく、子どもや先生方の健康、学校の安全の問題となっている。

この先、どのように計画をスピードアップさせて進めて行くか。

那須教育長

学校を訪問して、先生方も子どもたちも暑さに耐えながら、懸命に学んでいる姿を見ると、環境を改善してあげたいという強い思いはある。

これまで学校全体の老朽化対策と合わせて考えたほうが財政的にもよいと考え先延ばししてきた経緯もあり、計画の遅れを指摘されてもやむを得ない。

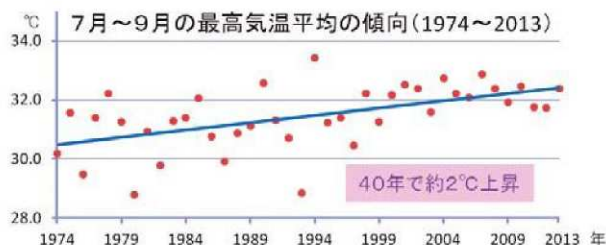
しかし、今年のような猛暑は、健康安全上、学

習上、確かに問題があると思う。

幼稚園・中学校に続き小学校でも27年度に設置できるよう、町長の査定に期待して、委員会として予算要求する。

家人町長

教育長の学校現場としての立場からの意見、また指摘のとおり、子どもたちと先生方の健康を考え、学校全体の施設の見直し計画とは切り離して考える。



公園のトイレ

町長／計画的に維持管理



坂本 典光議員

大津町には都市公園が11と町立公園が7つあり、公園管理に毎年4000万から5000万円が使われている。設置されたトイレの維持管理が十分でなく、年々みすばらしくなっていく。

①木製の外壁の傷みが激しい。認識しているのか。いつ補修するのか。このまま放っておくのか。

家入町長

①自分で見て回ったが、トイレの壁が傷んでいるのは確かである。

②子どもは洋式トイレ形式の「おまる」を使っている。高齢者にとって洋式トイレは膝に負担がかかる。

③は経済部長が答える。

④今まで町は国が進める新規の補助対象事業を優先的にやってきた。施設の維持管理は補助金が付かず町単独のお金を使わ

②便器はほとんどが和式である。洋式の方が高齢者に優しい。大津町には外国人も多い。洋式に替えるつもりはないか。

③昭和園、杉水公園では男女トイレの区分が不十分である。間に目隠しが必要だと思うが、対策するつもりはあるか。

④以上のような問題は以前から苦情が寄せられていたと思うが、今まで対策が取られなかったのはなぜか。予算が足りないのか。国の予算制度（補助金支給方式）に問題があるのか。



清正公道公園のいちばん東にあるトイレ。
大津の水車の模型がある。



昭和園・杉水公園のトイレ
男・女入り口は別になっているが中に入ると同じ空間中に目隠しが必要



今にも瓦が落ちそう！

家入町長

消防団の分団や班または地区では自分の地区に

空家、および危険な家屋の調査、対策について

町長／現況を調べる

①大津町で古くなったりして崩れかかり、人に危険を及ぼしそうな家屋および小屋は何件あるか把握しているか。危険と判断した時、持ち主に改善勧告しているか。たとえば大津郵便局近隣で瓦が落ちそうな建物も存在している。

②だれも管理していないような空家は火災の心配もあり、防災上好ましくない。そういう家屋が何件あるか把握しているか。

③調べてないなら①、②とも町で調査してみるべきではないか。

ある危険な家屋、小屋についてある程度把握されていると思う。全町的には調査はしていないが今後調査するつもりである。また空家についても実態が把握できていない。区長さん、民生委員さんにご協力願ひながらまずは実態調査から始めたい。

ご指摘の民家の持ち主は町外にお住まいとのことだが、近い将来その家を解体する計画があるという話を聞いた。さっそく先方と話してみたい。

ほかに一人暮らし高齢者の日常連絡は万全かという質問がありました。



松田 純子議員

消防団加入を促す環境整備の取組みについて

町長／現在の人員を維持し充実したい

地区の必要人員の配分報酬の適正化、負担金の均一化などの問題点を整理し、分団構成についての再構築を図る必要はないか。現状の問題点をどのように捉えているか。

家入町長

県菊池広域連合消防本部との連携により、現在の消防団員数で総合防災力の中核として活動している。現状の人員を維持し消防力の強化・充実にさらに努めたい。課題として企業から団員が出勤しやすい環境を配慮していただけるように現在も継続して協力を依頼している。

岩尾総務部長

町の消防団員数は昭和31年8月、5村合併時点で28分団、1090名で発足。後41年4月に8分団45班630名に改正され、現在も実団員数は630名。会社員524名、自営業23名、家族従事者62名、他21名となっている。企業勤めの団員が多いので出勤の場合には活

防災リーダー育成について問う

町長／地域防災リーダーは必要



女性消防団操法練習風景

動しやすい環境づくりを企業に依頼している。その他の要望は毎月行われている幹部会議で検討されている。

女性センター設立について問う

町長／女性が集まれる施設は必要

男女共同参画都市の構築のために、女性が子供連れで来れるスペース、パソコンなどを習うスペースなどを設けた女性交流できる施設をつくれないうか。

家入町長

女性が気軽に集い、交流し、情報の収集や発信

地域の防災活動の要となる防災リーダー育成は必要と考えるが、現在、大津町には何人の防災士が、どのような活動をしているか。また、活動についての町のサポートなどを問う。

家入町長

リーダー育成は必要不可欠と考えている。今後の取組みとしては、自主防災組織の設立や拡充を

の起点となる場、そして各種技能を取得できる様な場所が、必要と認識はしている。具体的にセンターの持つ機能はどのようなものか、またどのようなセンターが求められているのか、大津町女性の会をはじめ、関係団体から意見を聞き、考えていく。



男女共同参画懇話会会議

含め、自主防災活動支援事業等による資機材等の管理のあり方など、防災指導員による講習会実施や防災組織の普及および防災リーダー育成の推進を図るとともに地域コミュニティの強化を進め、地域内の連携強化につなげることで防災活動の活性化に努めたい。

岩尾総務部長

町が把握している防災

士は5名となっている。肥後大津防災クラブの設立が平成24年8月にあり、現在、防災士会員を含め17名で組織されている。本年6月に5名の防災士が防災フェア、災害等に関する写真や防災用品の展示、並びに防災相談を実施されるとともに日ごろから地域での、防災啓発活動をしておられる。

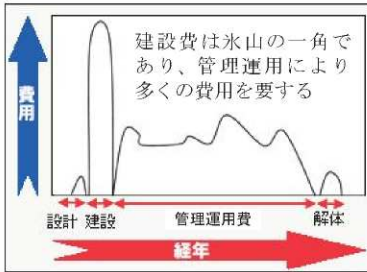


金田 英樹議員

公共施設（ハコモノ）の 戦略的整備・運営を

町長／次期振興総合計画策定時に合わせて策定する

町内の公共施設は、建設時には予算、機能等について様々な議論がなされる一方で、建設後の管理運用費用や施設機能改善に関する議論が少ないのが現状である。しかし、一般的に公共



施設は、建設費よりも建設後に発生する費用の方が高額であるため、建設にあたっては管理運用に要する費用も踏まえた中長期的な計画が必要である。また、建設後にも施設の利用データを分析しながら、機能改善を進め、場合によっては整理統合を行う必要もある。

その点を踏まえ、①「ライフサイクルコスト（建設から運用、解体等に至るまでの総費用）関連資料」、及び②「施設カルテ（施設概要、運営経費、利用状況、及び町民・利用者一人当たりのコスト等を一元的にまとめたデータ）」を整備し、それに基づいた戦略的な公共施設整備・運営をしていく考えはないか。

新設した公共施設の活用 状況と中長期的計画を

町長／今後も継続的に改善を進めていく

家入町長

ライフサイクルコストを含めた施設カルテは、次期振興総合計画策定時期（※）に合わせて策定したい。導入後のコスト削減・機能改善については、施設カルテに基づいて点検しながら、長期的視点に立って実施していきたい。また、施設カルテ整備前においても、十分なる資料を作りながら施設を整備・運営していく。

（※）現行のものは平成27年度まで

公共施設の中で、特にここ数年で新設されたビクターセンター、まちづくり交流センター、歴史文化伝承館について、現状と今後の計画について問う。

家入町長

交流センターとビクターセンターは、将来的には肥後大津観光協会に建物の管理関連を委託し、大津町の食文化をはじめとする交流、あるいは観光推進を行ってもらいたいと考えている。

歴史文化伝承館については、広報紙等で活用方法を分かり易く発信するとともに、来館者の声を取り入れながら展示物についても定期的に入れ替えを実施して、より住民に興味を持ってもらえるよう努力する。また、中央地域の活性化という形で、上井手関係の観光ルートを検討しているが、その動きとも連動させ、交流や町文化を知ってもらうための施設としたい。

自主防災組織の育成・ 支援体制強化を

町長／ソフト面の支援を強化していく

自主防災組織の新設・育成に関して、行政からは備品への補助金等の支援策は打ち出されているが、組織の整備・育成等のソフト面の方針や具体的計画が十分に示されていない。

このような地域の人材のみに任せる状況では、有事に機能する強固な自主防災組織体制の構築は進まない。実際に既存の自主防災組織の中で活発に活動している組織は少数であり、形骸化している組織も多いのが現状である。また、行政が各組織の活動実態を把握していない点も問題である。それらの点も踏まえ、次の4つの取り組みを行う考えはないか。

①自主防災組織設立・運営マニュアルの提供
②町内自主防災組織の取

り組み好事例の共有化
③機能別消防団の仕組み等を活かした消防団との連携強化（大規模災害時のみに活動する分団・女性消防分団）
④各組織の活動実態把握、行政との連携強化

家入町長

①各組織に県が作成している自主防災活動の手引きを提供する
②先進地区の状況を冊子にまとめ、共有化を図るとともに、自主防災組織連絡会を整備したい
③昼間の災害に対応するためにも課題の一つだと認識している
④行政として実態の把握を進め、自主防災組織連絡会を通して各組織との連携強化をする



吉永 弘則議員

活力あるまちづくりと地方部の活性化を

町長／補助金を活用して地域づくり支援事業を推進していく

家人町長

地域のことは地域の方が自ら地域づくりに取り組むことが一番大切と思

本町の人口は年々増加し、今では3万3千人以上となり「元気なまち」とみられているが、それは中心部だけで、地方部では高齢化が進み寂しい状態となっている。施政方針では地域の元気を取り戻すことが課題であると言われている。今後中長期計画を立てて地方部の活性化に取り組んでほしい。地方にも観光資源等は数多くある。それを生かした観光ルート創り。又人口対策としては地価の安い地方部に宅地造成等を促し、定住促進対策を講じて活力を与えてほしい。町道とインフラの整備も必要である。救急車や消防車が通れない町道等は再点検し優先順位を付けて整備してほしい。要するに地域の資源を生かした人づくり、施設づくり、活性化対策などの問題点を複合的に組み合わせることで成果を期待したい。

中山部長

宅地開発については直接民間事業者には土地の開発誘導を行うのは難しい現状である。生活道路については毎年多くの苦情や要望が出されるが予算面もあり危険性、通学路、緊急性、投資効果等を評価し優先順位を決めて計画的に整備したい。

う。地域計画づくりは住民を巻き込んで創ってきたい。地方の活性化で、圃場整備など、国や県の補助事業を活用し道路整備等に取り組んでいる。町道関連については、地区の区長さん達と十分相談しながらやっていく。宅地開発等については農地法や都市計画法の関係と利便性を考えると若者や住民は中心部を求めている。観光関係については江藤屋敷をはじめとする文化遺産、上井手下井手の観光ルート、立野ダムからの白川の観光ルート、陽の原キャンプ場から矢護川公園等を生かした一体的な自然開発等を観光ルートとして摸索している。



シルバー人材センターの仕事



地域づくり「大林の牛舞い」

元気な高齢者に 雇用の場づくりを

町長／シルバー人材センターを窓口としてニーズに応じて活用していく

家人町長

国も昨年雇用の安定に関する法律を一部改正し事業主に対し65歳までの雇用を義務づけている。又町レベルでは本町だけが無料職業紹介所を開設し雇用相談を行っている。

公務員、民間企業においても60歳定年が定着しているが、すぐには年金が支給されない。又年金だけでは生活できない等の事情で再就職、就業を求める高齢者は少なくない。町としても高齢者対策は重要な課題である。そこで就業を求めている町民がどの程度おられるのか、又事業主は退職準備援助措置を講ずべきと規定しているが、事業主に代わって町が措置し講座を開設するような考えがあるのか伺いたい。

中尾福祉部長

人材センターの24年度末会員は233人で契約金額は9千3百万円となり前年比で1千万円は増えている。今後高齢者からの相談に対しては日頃から広報紙等で情報の提供を行っていききたい。

しかし高齢者の求人は少なく雇用にはつながっていないのが現状である。大津町シルバー人材センターでは町内企業等からの受託業務の確保に努める希望に応じた就業の機会の確保に努めている。又シルバー人材センター連合会で各種技能講習等を実施しておりそちらの利用を紹介している。

中学生の自転車通学路の安全性について

町長／県と相談しながら安全性に努める



府内 隆博議員

大津町も企業誘致により本田技研をはじめとし、多くの工場ができ、朝夕は通勤者などで大渋滞が見られる。県道325号

線と大津バイパスから美咲野交差点、それから県道矢護川大津線の道路に車が渋滞しているようです。日本梱包運輸熊本営業所平川倉庫前の県道矢護川大津線から本田技研南道路線の交差点に横断歩道があるが、朝の通勤ラッシュに高校生や中学生の自転車で通学する生徒がなかなか横断ができない、危険を感じていると聞いている。通学路でもある。本田技研南通り線の交差点に押しボタン式信号機を設置できないか、保護者から強い要望がある。町の考えを聞きたい。

家入町長
交通安全教育の徹底やそれぞれの関係者の交通指導関連等によって町内の事業所を通してながら通勤帯の交通安全の取り組みの依頼も併せて必要ではないかと考えており、県にも要望しながら、中学生の交通安全性に努めていく。

那須教育長
日本梱包運輸倉庫前の交差点は道路が緩やかなS字カーブとなっており横断歩道手前で左右の自転車の確認が大変しく、危険であると感じた。学校教育課では学校と連携して生徒の自転車の正しい乗り方指導や交通マ



県道矢護川大津線の日本梱包前

新規就農者について

経済部長／青年就農給付金制度の周知徹底を図る

ナーの徹底を図り交通安全意識の高揚と安全行動の実践を促すよう推進していきたい。

新たに県内外から新規就農をされた農家に対して今後どのような支援を考えているか。地域の担い手にもなり空いている農地を借りることに

作放棄地の解消にもなるので農地の借り貸しの中間的受け皿に対応して欲しいと考えるが町の考えは。

大塚経済部長
国は平成24年度から就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため青年就農給付金制度を始めました。給付要件を満たせば最長5年間、年間150万円が給付されるものです。

松岡農業委員会事務局長
新たに農業を始めるとなると農地法等の関係があり地域と密接な関係が必要となる。いつ農地相

対象は45歳未満となっており、このほか、農の雇用事業という制度もあり、農業法人等が正社員として雇った場合、最大120万円を最長2年間助成する制度であり45歳以下が対象者となっている。

談にいられても地域の代表である農業委員さんを通じて対応していきたいと考えている。



耕作地